

和歌山県土木部 工修 正員 村橋正武
 京都大学工学部 工博 正員 春名 攻

1. はじめに

近年の国民の定住志向に対応して、わが国では国土・地域計画の基本フレームとして定住圏構想が提示され、これに基づく地域整備が進められている。一方、人々の居住地選択行動や企業の立地行動は、わが国経済社会の都市化、国際化、情報化の動向にそって、従来の市町村の行政区画を越えて広域化、多様化しつつある。

このため、地域整備を推進するには、その根幹をなす中心都市圏について、地域の社会経済活動の構造的メカニズムに基づいた総合的な都市基盤整備に関する政策の科学化を図り、行政の一貫性を有する実行性ある計画方法論による政策の実施が要請される。ここでは総合的な都市基盤整備についての現象合理的で目的合理的な計画策定のシステム化を図る方法とこれによる具体的展開のあり方について考察する。

2. 計画策定のシステム化の視点

都市圏の諸問題は一見複雑にみえても、対象とする現象には構造的メカニズムが存在することから、これに即した認識と対応する計画論の構築が重要である。都市圏を望ましい方向に誘導するための計画を策定するにあたっては、対象とする地域が有する構造の静的、動的メカニズムを現象合理的にシステム論的に把握し、問題に対応した計画及び計画を実行する施策手段体系を構造論的に位置付け、目的合理的な計画のシステム化を図ることである。図-1に示すように都市圏整備に関しては、対象とする地域が持っている圏域構成の実態、計画目的に対応した計画体系及び整備する施設内容に応じた施設体系を階層構造的、機能構成的にとらえる。計画主体は構造的認識に基づいて総合化した計画において、圏域整備のフレームを示すとともに、フレーム実現のための実行性ある施策手段体系を提示する。

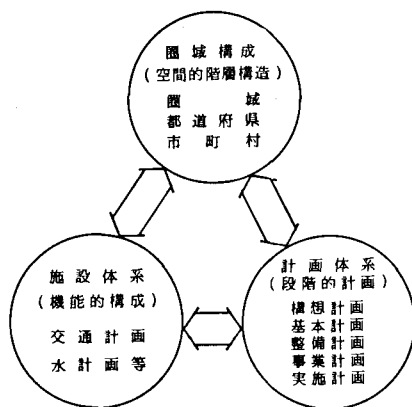


図-1 広域都市基盤整備の構造的認識の視点

また、計画のプロセスは通常、構想計画等の計画策定プロセスを指すが、ここでは図-2に示すようにこの段階以降、計画に基づく諸施策（施設整備、計画的制御等）を実施し、目的通り成果を挙げたか、存在する問題は何か等について評価診断し、次の計画策定の動機を整理する段階までを含めた全体プロセスと考える。すなわち計画のプロセスは、都市圏整備の目的、方向、実行手段等の提示から、具体的手段の実施、さらに結果の評価までを総合化した一連のマネジメント・サイクルととらえ、前述の計画策定はその中の一段階と位置付ける。

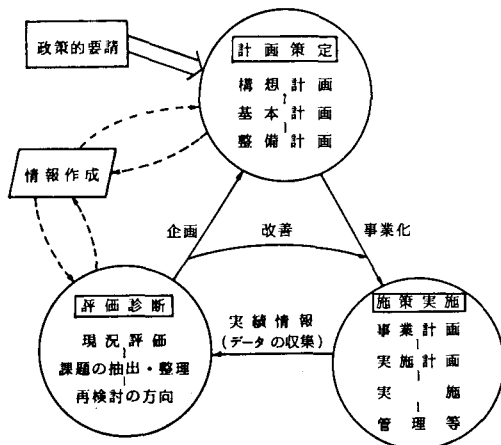


図-2 計画のプロセス・システムのフレーム

3. 総合的な都市基盤整備の計画論

大規模で複雑な問題を対象とした計画は、はじめに現象の構造的把握と現況課題に関する分析を行い、次いで将来の整備方向のあり方を踏えた計画課題の設定についての分析を行う。さらに計画課題の合目的性及び実行可能性を検討するため、計画のシステムモデルを定式化するとともにこれの分析を行い、計画策定に必要な政策の体系ならびに施策手段体系に関する情報を得る。この場合、各プロセスにおいてはそれぞれの検討レベルに応じて、論理性、精度上の整合性を持った計画情報を準備する。

以上の考え方に基づいて、和歌山市を中心とした半径40kmの和歌山都市圏を対象に、総合的な都市基盤整備に関する構想計画化の事例を取上げる。和歌山都市圏は京阪神都市圏の外縁部に位置し、大阪市に依存しながら比較的自立した地域として成長してきた。今後は関西国際空港をはじめテクノポリス構想等、大規模プロジェクトによるインパクトを積極的に受けとめつつ、21世紀をめざした個性ある地域整備を図ろうとしている。和歌山都市圏の構想計画化プロセスは図-3の通りである。

- ① 都市圏データ、既応計画の評価等を通して、圏域の階層構造的特性を把握し、現況課題の抽出を行う。
- ② 都市圏整備の政策的要請を受けて、都市圏の階層性と計画・施設体系を踏えた整備の基本方向を設定し、将来の計画課題の分析を行う。
- ③ 計画課題を総合化、体系化して都市圏の将来像を作成し、階層的にみた都市機能の配置や基盤整備の方向から構想計画のモデルを作成する。

和歌山都市圏の整備の基本方向としては図-4に示すように、(i) 開かれた都市圏の構築、(ii) 大規模プロジェクトのインパクトの積極的活用、(iii) 経済的自立性の確保、(iv) 定住基盤の整備を掲げ、文化・交流基盤、産業基盤及び生活基盤の強化を図る。これを受けた都市圏の将来像は「和歌山都市圏の活性化、一体化」を基本目標に3本柱を基軸とし、さらに作成した将来像を実現するため、表-1の都市基盤整備の方向を提案する。

4. おわりに

本稿に引続く都市基盤整備の計画論については、さらに事例研究を通して、実行性ある方法論の確立を図りたいと考える。

現況分析の検討（都市圏の現況認識）

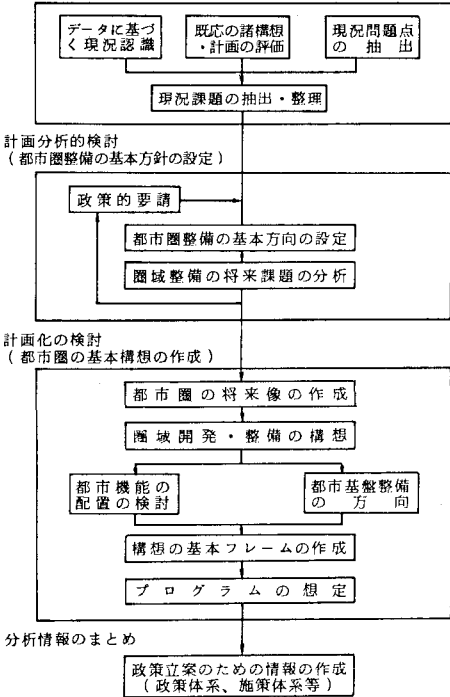


図-3 構想計画化のプロセス（和歌山都市圏の例）

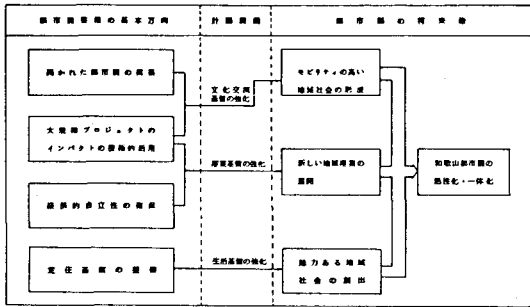


図-4 和歌山都市圏の将来像

都市基盤整備の方向（和歌山都市圏の例）	
都市圏	都市基盤整備の方向
ヤマトの新しい地域社会の形成（文化・交流基盤の強化）	教育施設の充実 ・高等教育機関の充実 ・大学・文化・研究の普及と発展 ・学術研究機関の創設・誘致 ・広域ネットワーク体系の形成・強化（交通・情報）
新しい地域発展の展開（産業基盤の強化）	産業基盤の形成 ・産業の集約化 ・産業の高度化・3次産業の振興 ・地域産業センターの創設 ・流通センター・工業団地の整備
強力な地域社会の創出（定住基盤の強化）	都市環境の形成 ・都市内緑地の保護 ・地域の都市緑地の形成 ・レクリエーション・レジャー・リゾート施設の整備 ・環境文化・環境教育の推進 ・環境的・環境的・環境的